

沖縄県ハンドボール協会 スポーツインテグリティ研修会 (2023・2・26①)

昨日は研修会にご参加頂きありがとうございました。皆さんの「私は、いま、こう思う」を個人が特定できないように加工して一覧にしています。研修会内で「自分の価値観」を言葉にし、ペアディスカッションで「他人の価値観」を知り、この振り返り Paper で同じ研修会内での仲間の「多様な価値観」を学ぶことに繋げてもらえればよいと思います。

目指す指導者像とあるべき指導者像を整合させ続けながら、子ども達と関わっていきたくて考えました。スポーツ指導や関係者の間でうやむやになっている課題についてこれからも考えていきたくて思いました。三輪先生ありがとうございました。

自分のためにも、プレーをしていく子のためにもお互いを尊重していかなければならないと思います。良き敗者、良き勝者に部活生がなれるような指導をしていき、その指導法も暴言や暴力ではない方法でやってく必要があると思います。

小学カテゴリにいるため、人生で初めてハンドボールに触れる子どもたちの指導に携わることになる。人生に大きな影響を与えることを、我々は忘れてはいけない。どのような指導者になりたいか？という問いを常に続けていきたくて思う。

暴力や暴言についての内容が思っていたよりも深刻で、自分でも無意識に行なっていたかもしれないなど思いました。指導に対して選手達にわかりやすく、接しやすいように心がけていこうと思いました。

良き敗者について、自分の学生時代が果たしてそうだったのかと考えさせられることになった。それを子供達に伝えることが出来ているのかと改めて考えさせられた。また、スポーツマンシップと勝利の追求というワードが1番印象に残りました。確かに、勝利を目指すことで多少スポーツマンシップから反した行動をしてしまう。その両方を目指さなくてはならない、そのためにも自分自身も学びをやめずに成長し続けたいと思いた。非常にいい話を聞くことができました。ありがとうございました。

「学ぶ事をやめた時、指導者をやめなければならない」。時代が進んでいく中、ハンドボールのトレンドも変わっていています。流れに乗り遅れないように、アップデートしていきたくてです。心の師を目指して、学び続ける指導者で在りたいです。本日は、お忙しい中このような機会を設けていただきありがとうございました。

今日の、講習を受講して、沖縄県のスポーツ競技等から体罰がなくなる事を願いたいと思います

指導について子供たちにかける言葉1つ1つが人生に大きく左右すると思いました。現在の指導者の

殆どが現役時代にきつい練習をしてきた方も多くいると思います。それを今の時代にやって良いことと今はだめなことを明確にし、長く子供たちがハンドボールをすることが、指導者として、子供たちも幸せかなと思います

今回はありがとうございました。指導者・教育者として、日々学ぶことやたくさんの言葉を知ること、人間性が大切なんじゃないかと感想を持ちました。競技力向上、勝つこと・勝たせることが求められますが、頑張っていない・努力していない人は少なく、勝負事は運もあるかと思います。そのスタンスで、ハンドボールという競技の楽しさや好きなことを続けていく事で身につく強さを教えられたらと思います。そのために、私自身も色々と学び・経験を積んでいきたいです。

自分が学生時代、指導者や先生に意見を言ったりする事はあまりなかったので、指導が一方通行でなく、生徒が自ら質問や相談が出来る指導者を目指していきたいと思いました。

指導の仕方の変化に大変驚きを感じました。1番いい方法をいろいろな人と共有しながら指導方法を変えるのも選択肢の一つだと思いました。いい意味で記憶に残る指導者を目指して努力したいと思いました。

良き指導者、良き父親になれるように頑張ろうと思いました。

主に自分の子供へのハンドボールと子育てと照らし合わせてハッと気付かされました。当然その子のためという気持ちでやってきましたが間違いに気づくことができました。手っ取り早いハラスメントではなく、その子達たちが指導や子育てをする立場になった時、良い影響を与えるようにこれから成長していきたいと思いました。

今回の受講で考えさせられた事は、自分の体験を美化して考えている面があるという事です。自分がこうされたから、生徒にも同じようにやろうという古い考えを脱却し、自分がこれから教える生徒がどう感じるかを考えて指導に当たっていこうと思います。確かに、試合に勝つ事は楽しい、本当にそれだけで良いのか、自分のなりたい指導者とは何なのか自問自答して納得のいく答えを探し今後もハンドボールに携わって行きたいです。

お忙しい中本日の講習ありがとうございました。私は体罰、暴言を受けないように考えてハンドボールに取り組んできました。周りも罰を受けないように自ら声掛けしたりとかしてきましたが、やはり考えないや意識がない部員は指導者及びチーム内でのモチベーションの熱量に差ができてしまい、チームを去ることが多かったです。私自身、体罰をする指導者は技術的にも精神的にも実力不足だと感じています。なので、本日のような理論等の講習や技術面の講習を年に数回持つことが体罰防止につながるかと思います。あと1点の悩みではありますが、やはり上位校にもなると保護者から勝利を求められます。あの指導者なら勝てるのに等、良く言われますが、保護者に関するスポーツモラルの教育や指導への理解も今後必要だと思います。体罰を無くすという表現でなく、そもそも起きない指導をこれからも意識し

て取り組んでいきたいと考えています。本日は、ありがとうございました。

今回の研修に参加してみて、体罰や暴言は指導者のエゴや自己満足でしか無いと思いました。体罰や暴言は受けた本人がどう捉えるかの問題で、行った人は受けた本人がどう捉えるかなど考えて無いのだと思いました。今後、部活動で指導を行なっていく中で生徒達とコミュニケーションを取り対話を行なっていく、指導者と生徒の関係性をより良く深めていきたいと思っています。

講習を通して最も感じたのは、「自ら考える選手の育成」を目指していく必要があるということです。ミーティングなどでも、指導するのではなく、顧問として「この方向に行くと良いね」と言ったことを投げかけるのみに留め、生徒の変容を待つことが必要であると感じた。専門外でプレーの指導が出来ない以上、礼儀やマナー面などの、社会に出た時に生徒が不利益を被らず、「部活動で学べていて良かった」と思えるような点を指導していきたい。ただ、研修を受ける中で同時に感じてしまうのは「顧問の働き方」の問題である。部活動指導に関する問題と同等に、顧問の労働時間に関する問題が扱われているだろうか。専門外顧問である私の立場で考えた時に、これほどの熱量で指導はしていけないと感じてしまった事もまた事実である。これまで以上に「部活動」への想いが強い教員が求められていくように感じた。

指導については、常日頃から難しいと感じていて、先程発した言葉は正しかったのか?など反省することが多々あります。今日の講習会に参加して、叱咤と暴言の差について、難しいなと思いました。自チームの選手に対して、大声の叱咤がレッドカードになるとありましたが、ゲームの流れや選手の状況によっては大声の叱咤はやってしまっています。もちろん、状況によってはベンチに下げて話をしますが、ゲームの流れで呼べなくて、言ってしまうことも暴言になるのであれば、指導の仕方を考えていかなければいけないなと思います。この講習会に参加していなければ、上記のような考え方も出てこなかったことなのかなと思うと、定期的な講習会は必要だなと思いました。今日はありがとうございました。

私は現在●●で指導していて、打倒●●という大きな目標を掲げて取り組んでいます。伝統校で勝たなければいけないという周囲からの期待や保護者からの期待がものすごく大きいことをヒシヒシと感じます。プレッシャーもある中ですが、指導していくうえで私自身も成長していかなければいけないと強く思いました。今後とも生徒と共に成長していけるよう頑張ります。

もともと暴言については否定的だったが、体罰は完全な否定という捉え方はしていなかった。自分が現役の頃体罰を受けていたが、その指導者のことは今でも尊敬しており、その指導者がいたから今コーチとして携わっている。体罰を否定することがその指導者を否定することになるような気がしていた。今回の研修を受け、体罰に賛成だったわけではなく、その指導者を否定したくないだけだったことに気づいた。これまでも体罰をしていたわけではなく、暴言にも気をつけていたつもりだが、技術の指導にばかり意識がいて、どのような発言が暴言になるかまで深くは考えていなかったことに気づいた。意識を変えるいい機会になった。この意識を継続するよう努めたい。

今回の研修会を受講し、これまでの事を深く考えながら今後、指導者としてどうあるべきかをよく考え

ていきたいです。選手の人格を尊重しながら多くの事を伝え、『心の師』と呼ばれる指導者になるよう、努力していきたいです。本当にありがとうございました。

指導者は、頭の中身を常にアップデートしていかなければならないと思いました。私自身も過去に、部顧問や監督から多少なりとも厳しい指導を受けてスポーツを続けてきました。嫌な思いをしたこともあれば、自分自身の成長を感じたこともあります。しかし、選手（生徒）によっては厳しい指導に耐えられるような選手ばかりではありません。また、厳しい指導に耐えられたとしても、内心はすごく傷付いている選手もたくさんいると思います。過去に自分自身が受けた指導が絶対的な正解であるという認識を捨てる。そして今、自分の行っている指導が絶対的な正解であるという認識を捨てる。「もっと良い方法があるのではないか？」という疑問を常に念頭に置き、選手にとっても指導者にとっても心の底から充実感を持ってスポーツに取り組むことができるよう、私自身がこれからも恆に学び続けていきます。

今後も、ハンドボール部と関わり、人として成長したい。

コーチのあり方について改めて考えることができました。これまでの指導を振り返ると、熱い気持ちを持つことは、本音で発言することだと間違った認識をもっていた過去がある。今回の研修を含め、指導する立場にある我々が、人格を否定することがあってはならないことを学び、今後の常識として捉えていきたいと決意しました。

昭和→平成→令和と時代が変わっていくなか指導者も変化していかないといけない事が改めて実感しました。私はハンドボール未経験者ではあるが他のスポーツを行っていたので、その時に受けた指導は今でも覚えていることはあります。良い指導よりは、体罰や暴言の指導の方が鮮明に記憶しています。良かったのか悪かったのか答えはすぐに出ませんが、これから先スポーツを通して子供達の為に良い父母・指導者になれるよう言動・行動ともに意識していこうという良い機会になったと思います。

今の時代の子ども達への指導のあり方を学んでいかなければいけないと改めて感じました。今1人で指導していて大変不安があります。子ども達を育てるためには沢山の目が必要だと感じています。そのたくさんの目をどうやって集められるのかも考えていきたいです。今日は講習会ありがとうございました。

沢山の気づきがありました。私という人間が子どもたちに与える影響は大きいと思います。私が変わる、実践する、そして学び続けていきたいと思いました。

今日は研修会にて、素敵なお話しをしていただき本当にありがとうございました。これまで、私はハンドボールや他スポーツをしていくなかで限られたグループでしか所属しておらず、限られた環境でしか成長して来ません。三輪教授のお話を聞き新しい価値観や考え方に触れられてとても有意義な時間でした。感じた事を、有意義な時間だけで消化するのではなく、今所属している団体、また家族にアウトプットしていけるよう行動も変えて行けたらと、感じています。ありがとうございました。

私の学生時代の経験から体罰は指導者との信頼関係があれば一部容認してもよいのではと研修前半では思っていました。時代の流れ、子どもたちの脳や心への影響を考えると、絶対にしてはいけないものだと思います。子どもたちの将来を明るい未来にするために、これから更に多くのことを私自身が学び続け、ハンドボールや他のスポーツの楽しさ、また大切な仲間との充実した日々を作れる指導者になりたいです。誰が見ていようがいまいが、正しいことを、正しく行う。自分自身もそういう人間に、そしてそういう子どもたちに育てたいと強く思いました。本日は大変貴重なご講話を頂き、ありがとうございました。これからも自己研鑽に励み、頑張ります。

本日の研修を受け、体罰・暴言等に関しては、やってはいけないという認識はあります。しかし、自身の経験上、それによって効果があった場面があったように感じていたことから、完全否定できない自分がいたのも事実でした。過去の受講生の中にも「しない派」という意見がありましたが、まさしく似たような考えでした。個人的に、目指す指導者像としては、生徒自らがハンドボールにチャレンジし、失敗や成功から経験を積むことを楽しんでいくことを手助けしたいと考えているので、今回の内容を踏まえ、指導するとともに、その生徒たちの将来を楽しみにできるように心がけていきたいと感じました。本日は、ありがとうございました。

指導者として関わる生徒たちと、一生繋がる良い関係を築いていきたい。その為にも、常に自分の指導に対する姿勢を振り返り、研鑽し続ける指導者でありたい。生徒達がハンドボールを通して、幸せで充実した生活を送れるように、生徒目線の指導を大切にしていきたい。今回の研修、大変勉強になりました。ありがとうございました。

私は、体罰や暴言を受けていましたがその当時は何クソ精神でやってきました。受講後のコメントにもあったように、「自分が受けてきたことを美化している・他の方法が分からないから体罰に走ってしまう。指導力不足」この言葉がすごく刺さりました。部活指導において、人格育成が根源にあると思っています。暴言などで人格否定をしないよう、心端にならないよう声かけの仕方を工夫します。「こんなつもりじゃなかった」が通用しない世の中なので、自分の言動に自覚と責任をもって接していきます。言動一貫、この言葉を忘れずに部活指導だけではなく、学級経営にも活かしていきます。自分の信念も大事ではありますがこの研修会を通して、時代にあったやり方で柔軟に対応などができるように、もっともっと勉強し知識を増やしていきます。この研修会は、意見交換などもあり有意義な時間でした。ありがとうございました。

私は今まで体罰は場合によっては教育的効果があるのでは無いかと思っていました。しかし、その考えが覆されました。そう感じたのは、「体罰をするのは、その他の指導方法がわからないからだ。指導力不足なのだ。」という言葉からでした。体罰暴言は、ただ生徒を萎縮させ、場合によっては彼らの人生にPTSDなどの形で負の影響を及ぼすかもしれない。指導者の立場の私も恐怖に襲われました。私たち指導者は、生徒にもっと言葉、態度などで見本となるような指導方法を身につけるべきだと感じました。沖縄でも、指導者の誤った指導方法により、命が失われるという事件が起きてしまいました。一指導者として、真摯に受け止め、もうあってはならないことだと、周りの指導者と共通確認したり、雰囲気作りなどをして

食い止めていきたいと思いました。本日は本当にありがとうございました。なとても勉強になる、良い機会となりました。

本日の研修を受講して、私は、どんなことがあっても体罰、暴言は許されるものではないと改めて思います。しかし、スポーツ指導の中では、いまだに体罰、暴言が繰り返し行われ心を痛めている競技者がいると言うことを深く受け止め、自分自身を律し、自分と関わる周りの大人や指導者を含め、体罰、暴言の無い(許さない)チーム作りに努めていきたい。そのためにも、学び続ける人間でありたい。本日は、学びの多い、そして自分自身を振り返りこれからを考えさせてくれる研修会を受講できたことを感謝申し上げます。

これまでに自分が受けてきた指導が良かったのか悪かったのかをこれまでに考えたことはなかったが、自分が経験したことが指導の根底にあると思っている。それがプレイヤーズ・センタードとなっているのか指導を見直していきたい。今日の講義の中の「言動一貫」については普段から感じていることでした。生徒へ求めていることと同じことを自分ができているのか、また、生徒が求めていることに答えられているのか。自分の言動をしっかりと見つめ、指導にあたりたいと思います。

今回の講義では互いの意見を共有する場面を多く持つことができ、とても深い学びを得ることができました。スポーツ指導の場面で生徒との向き合い方について、これまで細かく意識したことがなかったので、今日の講義を受けて、時代の変化に合わせ、一人ひとりの生徒の個性を尊重した柔軟な対応が大切だと分かりました。今日の学びを明日からの教育現場で多く還元できるように頑張りたいです。ありがとうございました。

スポーツインテグリティ講習を受けて、スポーツ指導者として、ハンドボールを指導する立場であるものとして、学び続けると言う姿勢を持ち続けたいと感ぜました。体罰等はあるべきではない、やってはいけない行為だと知っていながら黙認し続けている、もしくは行なっている“確信型”であると言うふうに思った。先日、シュートノックで時間内に目標達成できない生徒に対して練習終了後、15分間のランメニューを強制したのも、生徒から(15分はキツイです。無理です)とあったにも関わらず、強制させていました。パワハラだと捉えられてもおかしくないです。生徒の中には度々、ランメニューを行う際に(先生は走らないんですか?)と質問してくる生徒が少なくありません。僕らの時代にはこういう質問をしてくる人はいませんでした。こういう雰囲気ではなかったし、監督や教師からの教えや躾、指導はトップダウンだったからです。しかし、現在求められるべき指導者というものは生徒と共にハンドボールを学ぶ、もしくは体罰・パワハラなどによる指導が一切なく、ハンドボールの楽しさを指導する人が求められているのかな、と感ぜました。生徒のためにも、自分の人生のためにも共に学び続けるという姿勢を忘れてはいけないと再認識させられました。

今回の研修から自分の指導の在り方など他者との意見交換をすることができ、とても充実したものとなりました。自分は指導者として経験が浅いのです。体罰や暴言について絶対にやってはいけないものだということはわかっています。今の時代に合わせた指導の工夫を勉強していきたいと思いました。時

代の変化するスピードが速いので知識のアップデートを行っていきたいです。研修でたくさんの言葉が出てきましたがそのなかでもスポーツは善にも悪にもなりうるという言葉が心に残りました。こうあるべきを突き通すのではなく、みんなが幸せになるような指導者になれるように頑張りたいです。今日は貴重な研修ありがとうございました。

指導者となって30年近くになります。研修を受けて、これまでの指導方法の反省と今後気をつけなければいけないという気持ちを強く受けました。特に、研修の中で印象に残り、暴言、体罰の原因に繋がる一番の要因は「ハラスメント」だと感じました。指導者の発言が「本人の意図とは関係なく、相手を不快にさせたり、傷つけたり・・・」という内容が自分のこれまでの指導歴も含めてあったのではないかと現在は現在でもあるのではないかとウチアタイしたからです。大多数の教え子達は良い思いをして卒業してくれたと自己満足していますが、中には傷ついて不快な思いをして卒業していった子もいるだろうかと反省しています。今後、研鑽を続けて指導者として成長していきます。今後ともご指導よろしく願います。素晴らしい研修会でした

暴力、暴言、セクハラ、は常に気をつけて生徒に接していましたが、今日の講習で自分の気持ちだけでなく、他人からの目、第三者の意見が大事だとわかりました、これからの指導に生徒の将来は勿論、自分を守るためにも、今日の講習を思い出して指導していきたいと思いました。

自身の学生時代は暴言や暴力に合った事が無かったが、先輩や他チームの指導内で暴言や暴力行為を見たことがあった。今回の研修であったように、日本ではしつけ文化＝（体罰）がまだ根強いように感じる。生徒や親も洗脳に近い感覚になってしまう空気。おかしいと思っても言えない環境。まだまだ問題や解決策を整えている段階だと思う。暴力や暴言はあり得ない。考えは変わらないが、明日は我が身、受け取る側で解釈も違うため行動や発言を丁寧に身を引き締めていこうと思った。三輪先生の「教え子は僕の宝物」って言葉がとても嬉しかった。私も自分のポリシーを持って子ども達を育てていきたい。

指導者として、とても勉強になりました。暴言とは自分では思っていなくても、受け取り方によっては暴言になってしまう相手の気持ちになって、慎重に発言したいと思います。

体罰や暴言はいけないとわかっています。でも厳しさも大切だし、心を鍛える意味でも厳しさが必要と思うし、指導することの矛盾を少し感じていました。しかし、今回の講習で時代は変化続けていることそれに対応しなければならないことを再確認でき、また厳しく指導されてきた人は、同じ状況にならないと行動できない、という話が印象に残っています。自分軸をしっかり持ち、また生徒たちと対話することを大切に、お互いを人として敬いながら、指導していくことを認識しました。

私自身も学生時代に競技者としてハンドボールをしていた時は、指導者から叩かれたり暴言を浴びせられたりした経験があります。その時にはこのことが絶対にダメだという意識はなく、また怒られたという感覚だけだったと思います。しかし、今の時代では、このようなことは許されることではなく、同じような指導方法で子どもたちを指導することは出来ません。正しく子どもたちの将来を考えられる指導

を実践するために今後も学び続けていきたいです。いま、このような研修が行われて今後のハンドボール競技に携わる人達が体罰・暴言をすることがなくなれば、その指導者から指導を受けた子どもたちは体罰・暴言が指導の中では行われなかった世代になり、その子どもたちが指導者としてハンドボールに携わった時には、いま、理想としている「ハラスメントゼロ」に近づいていけるのかなと思います。その10年後、20年後のハンドボール、スポーツの発展のためにも今回の研修であったスポーツインテグリティを守って指導にあたっていきたいと思っています。

今回の講習を受講して、印象に残った言葉が暴言は『心罰』であるということです。これまでたくさんの選手を関わってきましたが、これまでの指導の中で、自分自身の指導法が体罰・暴言がたくさん含まれていたことを再認識しました。また、『学ぶことをやめたら、教えることを辞めなければならない』ということを実感しながら、今後、たくさんの可能性のある選手を指導していきたいと思っています。

今回の研修を受けて、選手を育成する立場として物凄く考えさせられる内容が多くありました。その中でも特に、Good Loser・Good Winner という言葉です。勝敗に関わらず相手をリスペクトする気持ちはとても大切な事だと感じているだけに、それを具体的な言葉や例として示していただけただけのことはとても有り難いです。また、ハラスメントについては、分かりやすい言葉や事例もある中で、明確な境界線がなく、この場合はどうなのかな。とまだまだ判断が難しい場面もありますが、プレイヤーズ・センタードを含めて今回の講話内容を共有しながら継続して落とし込む努力を続けていきたいと考えています。

スポーツインテグリティという文言も初めて聞きました。高潔性、健全性、言行一致の3観点から勉強することができました。普段生徒に言っていることが、自分が実践できているかという点と全て実践できているわけではない。スポーツ指導者になることはまず、自分の日々の言動から見直す必要があると感じた。「誰が見ていようがいが、正しいことを正しく行う」ことのできる人になれるようにしたい。スポーツをしていけばいい子が育つとは限らないということは、腑に落ちました。不思議なことに、学生時代にいじめられた先生の記憶が1番印象に残っているので、指導も伝統になると実感したので、次世代に残る指導をできるようにしたい。素晴らしい研修ありがとうございました。ハンド未経験ですが指導者資格も頑張るとりた。

自分は、小、中、高と印象に残る指導者と出会ったことがなかったので、今回の講習で、指導者のあり方を少し理解できた。今後子供への接し方も考えようと思った。

自分のチームの生徒は負けたときに両面テープを床や壁に投げつけたり、審判のせいにして相手に聞こえるように文句を言うことがあるので、負けて悔しがるのはしょうがないが、good loserとして振舞うことができるよう、指導していきたい。「スポーツマンシップ」と「勝利の追及」のダブルゴールを目指す現在のコーチング像があるが、「成功と失敗」、「自立と依存」、「強制と放任」のどちらにも片寄ることなく、バランスを取りながら指導していきたい。自分の考えを強制するのではなく、多様な考え方を尊重し、生徒を内面から変える指導ができるよう、もっと自分が成長していきたいと思った。

これまで教職員として、教育現場での体罰や暴言、いじめ防止などの研修を受けてきているが、今回の研修ほど考えさせられた、感じらものが多かった研修はなかったと思います。指導者としてのあり方の前に、スポーツの概念や勝者・敗者のあり方など、スポーツの根底から現実社会のスポーツや部活動についてを紐解き、私の中での指導者としての知識や存在意義などが一度壊され、再構築されました。指導者として、部活動内の体罰・暴言がやらないことは大前提であるが、この子達の将来も見据えた指導にも力を入れていきたい。また、自分の経験や価値観で判断せずに、一步下がった客観的な視野を持ち続ける努力を続けながらも、学び続けることを忘れないことも自分が思い描く指導者像としていきたい。

大会会場でもよく強豪チームの指導者が怒鳴り散らかしているのを目にしたりします。そのチームは強く、聞けば練習回数も週5回以上取り組んでいるとか。勝ちたい子達が集まって、意識高く取り組んでいるので、そのような熱い指導が入ってしまいかもかもしれないが、怒鳴られて泣いている子を見ると、残念な気がします。私は常日頃、勝ちを目指す、それが全てではないと思って指導しています。子どもたちの意識が低い時、子供達の中で意識格差がある時の指導に手こずっています。勝たせたい気持ちは否定しないが、レベルを合わせて、独りよがりな指導者にはならないよう気を付けていきたいと思います。

中学校ハンドボールのコーチとして、試合の勝ち負けだけでなく子供達の将来を考え、目的意識にあったレベルで指導し、夢と充実感を与えたいと思います。

自身も僅かではありますがハンドボールの経験があるため、縁あって中学校でハンドボール部活動顧問として指導にあたっています。義務教育を終えこれからさらに自分で考えて過ごしていかなければならない子どもたちがしっかり進んでいけるようにと、「チーム」として部活に参加するなかで、責任感であったり、言葉遣い、必要な気遣いなどが出来るようにと、また、何か力を合わせて目標達成に向かうことが学校生活の一助になればと考えて指導をしています。そのなかで勿論体罰がしてならないことは当然であり、自身が学生の時からそれは変わりません。そのようにした経験もされた経験もありませんので、少し他人事のように考えている節がありました。しかし今回の研修を受けて、何も暴言や暴力だけが体罰ではなく、真の意味で子どもたちを前向きに、希望を持てるようにサポートしているか自分自身を振り返るきっかけとなりました。過去の経験の中に現在起きていることに対しての答えを見出そうとしていなかったか、忙しさの中で余裕がなく、それにかまけてなんでこんな事も出来ないんだとそれを態度に出したことはなかったか、それが子どもたちにとって良い影響を与えたことがあるのだろうか、そんなはずはなく、色々なことを思い、考えました。体罰は勿論いけないことです。そして時代や子どもは変わる。それを念頭に置きつつ、自分自身が成長し続けられるきっかけとして今回の研修を活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

今回の講習会を受講させて頂き、体罰、暴言について深く考える事が出来ました。私も学生時代体罰を受けて来ました。それが当たり前だと思っていました。しかし、時代も変化していく中で今の時代に合わせた指導方法を常に勉強していかないといけないと感じました。

正直に言うと、今回の講習会を受ける前は、「スポーツインテグリティの講習会は最近受けたばかりだ

けどな…」とってしまう自分がいました。しかし、前回講習会を受けた時と同様に、強い衝撃を受け、自分自身を見つめなおす機会になると同時に、大切な生徒たちのことを想う時間になりました。今回、一番印象に残った言葉は、「体罰はしつけや教育ではなく、調教と捉えている」という指導者の感想文の一言でした。その通りだと思います。長年指導者を続けていると、たくさんの学びの中で、後悔を感じることが多々あります。無知だった頃の自分に教えられた生徒たちに詫びたいと思うことも、多々あります。過去に戻ることは出来ないので、理想の指導者に近づけるよう、今後も常に精一杯学び続けていこうと改めて感じました。今日は貴重な時間をありがとうございました。

ご多忙の中、研修会を開催して頂きありがとうございました。今回の研修会を通して思うことは、指導を行う際には常に心罰にならないように気をつけるということです。指導者としての熱を持ちつつ、プレイヤーズ・センターの考え方を大事にし、精進します。

ありがとうございました。今回の研修は、県ハンドボール指導現場で起きた事に対するの対処的なものと認識していましたが、ハンドボール（運動部）だけでなく文化部も含めた全ての指導を行う方々に積極的に受講して頂きたいと思いました。同様な研修は受講する機会がありました。今回も、これまでの指導方法の振り返りと指導者としての目的、目標を再確認することが出来ました。学ぶ事をやめたら教えることもやめなければならないことを忘れる事なく、指導にたずさわっていきます。

これまでの自分の指導を振り返ると、心に残る、よくない指導が二つ思い浮かぶ。ひとつ目は20代の頃、ランニングを怠けて歩いて帰ってきた、キャプテン含むレギュラー4人に対し、体罰を行なったこと。その後、夢にまで出てくるほど心に残っていて、絶対にやらないと誓った覚えがある。二つ目は去年、試合でミスをした選手に対して、「頭悪い！」と何度も暴言を吐いた事。あんなに誓ったはずなのに、同じ事を繰り返す自分がいます。今回の研修内容を忘れないように、日々意識して、関わった子供たちが「ハンドボール大好き！」になるよう努力し続けます。

私は今思えば子どもの頃に学校や部活等で体罰がある環境で育ってきました。その頃は、体罰が良い事なのか悪い事なのかなどそこまで深く考える事はなく、今でもそれがきっかけで良い方向に成長できたとも捉えています。しかし、指導者となった今、自分の経験してきたことと同じような指導をしていくことは時代に合っていないと感じています。『昔』は世間的にも体罰や暴言がそこまで問題視されておらず、その意義（指導者の意図）を汲み取る事ができる生徒も多かったこともあって「厳しい指導」という括りで容認されていたかもしれません（「帰れ」と言われたら、なぜそう言われたのかを考え行動を改めるなど…）。一方、現代では体罰や暴言が世間的に問題視され生徒たちにもその認識があるため、その意義（指導者の意図）を汲み取ることもなくなってきていると思います（「帰れ」と言われたら、帰る）。そのような時代になっている今、私は指導の中で生徒のためという理由があっても体罰や暴言を用いることは合理的ではないと考えています。また、今回の講義の内容にあったように脳科学的な観点でみた時に脳にダメージを与えているという事を含めると、もはやマイナスでしかないと思いました。最後になりますが、本日の講義は自分の価値観を見つめ直すいい機会になりました。ありがとうございました。

誰が見ていようがいまいが、正しいことを、正しく行う。スポーツインテグリティのわかりやすい意味を指導者としても心にとめ、生徒たちにも伝えていきたい。人格を否定するような言葉は、絶対に言わないようにする。それは、子どもを守るため、また、自分を守るためになるので、しっかり守っていきたい。今回の研修内容は、スポーツ指導に限らず、日々の生徒指導にも共通する内容でした。三輪先生はじめ、御尽力なされた全ての方々に感謝します。

これまでの自分の考えは経験の中でこうあるべきだという部分がありましたが、今回の講習会を受講し、体罰暴言では一過性で何も変わらないことに改めて気づきました。これからは一層に生徒と意見交換をしながら自分がどういうふうになりたいのかを考え勉強し成長していきたいと思います。